（平成２５年９月１８日）　**鉄鋼課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成２５年３月末	平成２５年６月末	平成２５年９月末見通し	平成２５年１２月末見通し
＋１７千トン ［　２２４７〃　］ （１００．８%）	＋７千トン ［　２２５４〃　］ （１００．３%）	－４９千トン ［　２２０５〃　］ （９７．８%）	－４４千トン ［　２１６１〃　］ （９８．０%）
２２１９千ﾄﾝ(98.8)	２２４３千ﾄﾝ(99.5)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成25年３月末	平成25年６月末	平成25年９月末見通し	平成25年12月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 75,800 円で前年比－300 円、前期比では＋4,200 円。電炉・溶協メーカーの値上げをそのまま市況に反映できなかったが、ある程度の上伸はあった。また、中板、鉄筋などで仮需が発生。ただ、市場の動きは期待したほどではなく、２月中旬あたりから中弛み傾向が見られるようになり、年度末には停滞感が漂い、値上げ転嫁は遅滞し、先々に不安を投げ掛けた。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 76,400 円で前年比＋2,700 円、前期比では＋600 円。販売は前年実績を上回っており、収益動向も改善されている。需要見通しにも明るいものが感じられるが、足元の悪さがそれを遮っており、期待したほど市場環境は好転していなかった。また、値上げ転嫁が未達状態で見通し難でもあるため、値上げ玉の入荷と相まって、先々の採算性の確保が危ぶまれていた。	８月は稼働日数減で落ち込んだが日当たりにすると、横ばいか微増であった。盆休み明けから先高感や需要の底堅さから徐々に市場は盛り上がっている。品種によって斑模様であるが、条鋼、厚板の一部には仮需が発生し、歯抜けが出ている。需要は総じて前年比増の推移であり、価格は強含みという状況である。このたびの東京オリンピック招致決定も追い風となっている。懸念材料は慢性化する人手不足、値上げ転嫁の未達であろう。	建設関連中心に需要は堅調に推移し、市中末端まで徐々に浸透していくだろう。市況はメーカー値上げと需要の後押しにより強含みの推移と思われる。このように市場には、何年かぶりのフォローの風が吹いていると言っていい。ただ、メーカーの値上げ幅ほど上昇できない市況動向、あるいは人手不足による工事遅延、遅れ気味のメーカーロールへの対応など、流通にとって不透明で採算性確保の足枷になる部分もある。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

店売りの厚板、薄板、平鋼では仮需が発生したとの報告があった。一方、直需関連では指値の厳しさや値下げ要請に苦慮している現実がある。総体として需給はタイト化の方向にあり、価格動向は強い。しかし、それ故に在庫を積み増しする動きはなく、~~さらにメーカーの引き受け姿勢が厳しいことから最低限の在庫を確保することが難しくなると思われる。~~

４．大阪、愛知の動向

（大阪）関西地区では目立った大型物件はないものの、中小物件は件数が出てきている。また、一方で消費税増税前の駆け込みで、住宅、造成地、工場、倉庫などや、車の買い替え需要も出ている。来期も民間の中小物件や太陽光発電向け架台の需要は引き続き堅調に推移するものと思われ、また、遅れていた公共工事も秋口から本格化する模様で、年内は底堅い動きとなりそうだ。

（愛知）建築向け需要は増加傾向で、名古屋駅前再開発物件の具体化している。ただ、当地区も人手不足が慢性化しており工事の遅れが懸念される。製造業関連では、自動車が生産調整に入っているが上振れする見込みとなっている。また、造船も受注が回復している。一方、大型建機は未だ不調に終わっている。店売りの切板は向け先で好不調があるものの、全般的には徐々にではあるが回復している。